



オナホになーれっ♡

不思議な力で好きな女を犯し放題
“強制合意”のいちゃラブセックス

**この物語はフィクションです。
登場する人物・名称は架空であり
実在のものとは一切関係ございません。**



ん……

もう「んな時間か……

推しのアイドルが配信をしているな……。

今日は「のキズン」の夜だ……。



あこがれ
画焦るい。

良い身体をしていて可愛い推しのアイドルだ…。

いつ見ても可愛い…。



ふう。。。

こんな女、一度でいいから抱いてみたいなあ。。。



くそ、いくらゴキウしても性欲がおさまらないな……。

引きこもって他人との接触もできない俺は、
性欲を発散させられず、

悶々とした生活を続けていた……。



その日の夜…

俺は夢を見ている…。

女をなんでも思い通りにできる
力を手に入れる…。

そんな都合のいい夢…。

『……』

なんだか……右手に違和感があるような……。



カグツ

A dimly lit computer workstation. A large monitor is the primary light source, displaying a bright, glowing sun or moon. The desk holds a keyboard, mouse, and various peripherals. A blue office chair is visible in the foreground. The overall atmosphere is quiet and somewhat mysterious.

右手に軽い痺れを感じて目を覚ましてしまった…。

明らかに普通じゃない感じだ…。
なんだか…、力がみなぎってくるような…。

『オナホになーれ…』

「……」

一瞬、頭がおかしくなったかと思った。
頭の中に直接声が響いたからだ…。

『この力さえあれば相手の意思など関係なく、好きな女を自分のオナホに命じて意のままに操ることができる……』

『発動条件は……』

『その右手を相手にかざして念じるだけだ……』

『オナホになあれ♡』と




なにを馬鹿な……。

俺はまだ夢を見ているんだらうか……。

だが、もし好きな女を
自分の好きなように
やりたい放題にできるのなら……。


俺には捨てるものなんてもう何もないんだ。

俺はゴクリと喉を鳴らして決意した……。

A dimly lit room, likely a home office or bedroom. In the center, a computer desk is set up with a large monitor displaying a bright, glowing image. A keyboard and mouse are on the desk. To the right, a blue chair is visible. The room is dark, with the primary light source being the monitor. The overall atmosphere is quiet and somewhat somber.

これまでではどんなにセックスしたい女がいても
家に帰ってシニコるしかなかったが……

この力で女をモノみたいに扱ってやる！！



この力を使って誰をハメてやるうつかと考え
チンポをバキバキにしながら
自分の部屋から廊下に出る出ると...

風呂上がりの妹に遭遇した。

俺がいつも部屋に引きこもってるからって
無防備に裸で歩き回りやがって…



引きこもってほぼ家で時間を過ごす俺にとって
関係のある女と言えはこいつくらいだ…。

もともと嫌われきっているんだ、
こいつで力を試してみよう…

「チツ…」

露骨に嫌な顔をされる。

「おっ…」

「妹の裸でロジロジみながら、
キモい」



だが今回は偶然出くわしたただけだ。

覗きでもしているならまだしも…
俺が引け目を感じることもなんてない。

#叫…

俺は妹の罵倒も意に介さず
妹の前に歩いていく。

「ちよ…急に何っ」



「お、オナホになーれっ!!」

!!

おーん

「オナ…ホ…?」

「あれ…、頭がぼーっとする…
あだし何して…。」



ポっ

「うお…本当に効いているのぼん…。」



自分に何が起こったかわからず戸惑っている…。
どうやらちゃんと効いてるみたいだ…。



「どうしたの？
のぼせたのか？ そんなにぼーっとして…」

すなわち……。

「…っ!!♡ そうだよね…
それじゃあ兄貴、スポン脱いで……。
チンポ勃起してるんでしょっ!」

「さっきまでの悪態はど!」
「へやう……」
「メスの顔になってるぞ……!」

「妹が兄貴のチンポ
気持ちよくするのは当然だよっ♡!」

「そうだな…ひひ……
妹なら兄貴の勃起ちんぽを
気持ちよくさせてみる……っ!」



態度が一変した妹の沙羅は
俺に密着して腕をとった。

普段のコイツなら
こんなことは決してありえない…。



風呂上がりだからか、余計に
彼女の身体の柔らかさやと体温を感じる…。

そのまま手を引いてリビングに先導され…。

裸のまま腕をとられた俺は
リビングのソファーまで連行されて…

妹の柔らかい足で
チンポを弄られていた…!!

お風呂上がりだからか、足裏もホカホカで
結構…いや、かなり気持ちいい……。

柔らかい足の指の腹で亀頭を圧迫しながら
器用にチンポをシゴいてくる…。



「兄貴のチンポなんて
触りたくもないはずなのにッ」

「(なんたる…この感じ)」

「(なぜかチンポが愛おしくて仕方ないっ…
身体の芯からチンポを求めてるみたい…)」



はぁ

ん

「あぁいいぞ…その調子だ」

はぁ

ん

「どう？兄貴痛くない…？」

↑
↓
+

↑
↓
+

「足だけでこんなギンギンにして
こんな我慢汁垂らしてる…!」

はぁっ
はぁっ

「足裏、兄貴の我慢汁で
べとべとなんだけどっ♡♡」

「お前の力加減が上手くいから…ッ
肉厚な壁にシゴかれてるみたいだっ!」

ギン
ギン

||
|Ov

妹の指先が、不慣れながらも
器用におれのチンポをツウツと撫で回す。
女の子の足ってこんな小さくて柔らかいんだな…。

なんだか足コキに目覚めてしまいそうだ……。

ぎこちない動きに初々しさを感じ、
興奮でチンポを更にとぎらせる。



「あぐっ…、気持ちいい…」

俺は快感に襲われて
妹の前で情けなく腰をビクつかせる。

「(足裏に兄貴チンポの温度も
ビクンビクンってなるのも伝わってる…♡
足裏ってこんな敏感だったんだ……)」



「ん、ちよつと動かすの慣れてきたかも…
こっやってスナツフキかけると…♡」

「うあああ…!!!」

「そんな声出して…
ホンキで気持ちいいんだね…
ぐちゅぐちゅってされると嬉しいんだっ♡」

「う、嬉しいですっ」

思わず敬語で返事をする。

妹に一方的に射精させられそうになって
興奮している自分がある。

「兄貴のことなんだから
どうせ精液溜めまくってさっさと射精してさっさと帰る！」

「妹の足で気持ちよくなって
せーし出しちゃえって♡」

びゅーびゅゅゅゅって♡
ほらほらっ…!!!

出せ…

沙羅ちゃんは『イケっ…イケっ…』と言いな
思い切り亀頭をシゴいてくる…。

「クソッ…イクっ…!!!
妹に足でイカされるうっ!!!」





お風呂

お風呂

お風呂

お風呂

「きゃっ…ずいずい勢い…♡」

「しかもこんな量出すなんて
ほんとにどんだけ溜めてたんだよ、兄貴はw」

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ド♡ん♡

ド♡ん♡

「はあはあ……」

うう…、妹に足でイカされた…」

それにしても今更だけど。
この力、本当に効いたんだな…

リビングで妹にザーメンをぶっかけてしまった…。
今更ながら、一線を超えてしまった感じがする…。

「はあっ…、はあっ…っ」

絶頂に達し、荒い息を整えながら
射精の余韻と感傷に浸っていると…。



「うーん」

目の前で沙羅が股を開き、
自分のおまんこを広げて誘惑してくる。

「兄貴ってばそんなポカンとしちゃって…
「本番」、しないの??♡」

「本番っ…それって…」

「わっ、っ」

「そんなの、妹まんこセックスに
決まってるでしょっ♡」

「おまんこ使わないの？
今なら発情してるから即入れOKだよっ♡」

「あんなに出してまだギンギンなんだから…
まだイけるよねっ♡」

妹の方からセックスまで誘ってきた…。
流石オナホ化の能力だ…。

それにしても…





「これが…本物のおまんこ…」

おもわずゴクリと喉を鳴らして見入ってしまう。

ネットに上がってるヤリマンの
ドス黒なまんことは違って、淡いピンク色だ…。

風呂上がりのシャンプーのいい匂いがある…。

「その反応…
兄貴童貞丸出したよっw」

「なんだ、悪いかよ」

「そうじゃなくって、
妹で童貞卒業できるわって♡♡♡」

「おお…、
言われてみれば確かに…」



この力を妹に使った時点で
こうする覚悟はできていたはずだ。

俺は妹で
童貞卒業してやる…っ!!

俺は高まる鼓動を感じながら
滾ったチンポを妹の湿った女性器にあてがい…。





んんん
んんん

「♡=」

んんん
んんん

♡

ん

「あぁっ……♡」

挿入した勢いで沙羅を押し倒すと
ばふんとクッションに頭を預けた。

ぐっ…

はぁっ

はぁっ

ガッ



「童貞卒業おめでとう、兄貴♡
はじめてのおまんこの感想はどう…?」

「凄い濡れてる…にゆるって入った…
熱くてなんだかふわふわする…」

「そっか…♡
ん…兄貴のちんぽもいい感じ…かも」

「ん」

「ん」

「それじゃあ動くぞ…」

体験版はここまでになります！

**『オナホになあれ』の不思議パワーで
色々なヒロインを犯しつくす様子は
ぜひ、製品版にてお楽しみください♡**